

2022年度 学校評価報告書

対象期間： 2021年4月1日 ～ 2022年 3月31日

学校法人 センチュリー・カレッジ
専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー



I. 2022年度 学校関係者評価委員会 開催記録・議事録

1. 日時及び場所：

- (1) 日時：2022年7月13日（水） 18:30～20:00
- (2) 場所：オンライン会場

2. 出席者

(1) 学校関係者評価委員

- 松崎 充意（一般財団法人石川県予防医学協会 理事長）
- 苗代田 美代子（保護者）
- 川端 瑞枝（保護者）
- 長谷田 敦志（公立南砺中央病院 リハビリテーション室主任）
- 田中 茉美（医療法人社団博友会 金沢西病院 作業療法士）
- 野倉 克利（医療法人積仁会 岡部病院 作業療法士）

(2) 本校教職員（オブザーバー）

- 加藤 謙一（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 校長）
- 黒田 智利（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 事務局長）
- 山本 達也（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 事務局次長）
- 狩山 信生（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 理学療法学科 学科長）
- 種本 美雪（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 作業療法学科 学科長）
- 池嶋香澄美（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 理学療法学科 副学科長）
- 竹内 佑（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 作業療法学科 副学科長）
- 曾山 薫（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 理学療法学科 教員）

3. 欠席者

なし

[敬称略]

4. 会議次第

- (1) 開会
- (2) 委員長挨拶
- (3) 2021年度 自己点検・評価 報告
- (4) 学校関係者評価の質問に対する回答
- (5) 学校関係者評価 意見・質疑応答
- (6) 2021年度 決算報告
- (7) 閉会

5. 配布資料（PDF）

- ・ **評価シート** 2022年度 学校評価（学校関係者評価）
- ・ [資料 1] 学校概要2022年度
- ・ [資料 2] 2021年度 決算報告書
- ・ [資料 3] 2022年度 各委員会の重点目標及び施策

6. 議事録

- (1) 委員長挨拶（学校関係者委員会 委員長／一般財団法人石川県予防医学協会 理事長 松崎様）
- (2) 委員の紹介（自己点検・評価委員会 副委員長 曾山）
- (3) 2021年度 自己点検・評価 報告（校長／自己点検・評価委員会 委員長 加藤）
自己点検・評価結果の大項目に沿って取組内容を具体的に紹介して補足説明をおこなった。

(4) 学校関係者評価の質問に対する回答

・ 学生に関する情報共有について（校長 加藤）

学科を跨ぐ情報共有については、事務方と教務が連携したサポート体制を整備する方向で準備を進めています。機密情報は守秘義務を遵守して必要なもののみを共有します。

・ 学納金について（事務局長 黒田）

現状は分納制度はありませんが、昨今の厳しい経済状況が続く中、経済的な理由で修学が厳しい学生さんに対しては納付期間の猶予や相談を受けて分納を提案しています。今後も弾力的な措置で個別対応をしますが、学校関係者委員の方のご意見として頂きましたので、懸案事項として検討をしていく所存です。

・ 就業規則について（事務局長 黒田）

昨年度に働き方改革の推進整備を予定していましたが、事情によりずれ込んでいます。就業規則の直近改定は平成28年4月ですので、より良い職場環境を整備するため、就業規則についても働き方改革と併せた見直し事業として進めていく所存です。

(5) 学校関係者評価 意見・質疑応答

長谷田委員) Office を活用した情報共有とは、具体的にどのような事を共有しているのか。その方法についても詳しく教えてください。

学科長種本) Microsoft365 のアカウントを本校から職員と学生全員に貸与し、その中のコミュニケーションツール「Teams」を使用しています。クラス単位、部署単位、業務内容（プロジェクト）単位等の“チーム”というグループを設定し、その各チーム内で伝達事項や共有すべきことを発信しています。

学生は一人一台タブレットやノートパソコンを所持していますので、これまでは授業資料をプロジェクターに映写していましたが、Teams に掲載して提示しています。手元の端末で拡大して詳細が確認できるので、伝えやすくなったと思っています。配布プリントの紛失も無くなりますし、いつでもフォルダーにある資料を見られるので復習がしやすくなったと聞いています。

長谷田委員) 評価手技の授業でも使っているのですか。

学科長種本) 評価手技でも動画を掲載したりして使っています。そのほかには Web ビデオで就職面接の個別練習用にも使っていますし、臨床実習中の学生との連絡ツールとしても役立っています。

長谷田委員) 臨床実習に行っている学生も発信された情報を確認することができるのですか。

学科長種本) 学外の自宅等からも資料や連絡事項は確認ができます。学生への個別の連絡はこれまで個人携帯の SNS ツール等を使っていましたが、Teams にはチャット機能もありますので、今は Teams に集約しています。

長谷田委員) いつから使い始めているのですか。

学科長種本) 約3年前のコロナ禍になった時からです。初めは Zoom のや Google も使っていましたが、Microsoft365 に集約したのは2年前です。今は決められた時間内の受発信などのルール作りの整備が課題です。

田中委員) 学生の相談事なども Teams でできますか。以前の個人携帯でのやり取りから、貸与されたタブレット等での対応ができるようになったということは良いことだと思います。貸与端末の持ち出しルールの整備など、個人情報の漏洩に気を付けていただきたいと思います。

学生募集の点で、どういったことをアピールして募集活動をしているかを教えてください。
修業年限三年制は決してデメリットではなく、専門的な事を学んですぐに働けるということ

はメリットだと思います。現場は即戦力になる人材が欲しいですし、成人年齢が18歳になったので、入学当初から学生に成人として接し、教育をしていることをアピールすることも有効なのではないかと感じました。

校長加藤) 即戦力を全面に出すと、学生は窮屈に感じてしまう難しさがある、緩急をつけた教育が大切だと感じています。
三年制は本校の特徴として募集活動でも大いにアピールはしていますが、それ以外にも特徴のある学校づくりが求められているのだと思います。サークル活動の開始等もその一環ですが、ご提案をいただくと助かります。

田中委員) この仕事はAIに代わることが出来ない仕事だと思います。その素晴らしさを学生に伝えて、働いた時に学んだことが活かされる、この学校がそんな場所になってもらえたらと思います。

野倉委員) 就労イメージを持ってないことが昨今の早期退職の多さに繋がっているのかと思いますが、働く自分のイメージを作るために取り組んでいることはありますか。また世代の特徴はありますか。

学科長種本) 年々、就労のイメージを掴めていない学生が増えていると感じています。作業療法学科は作業療法をイメージしにくいので、授業を進めながら学生の反応を検証して、どの時期に何を学ぶか、カリキュラムを少しずつ見直していますが、なかなか結果に結びつかない難しさを痛感しています。

現高校3年生は中学3年生の時にコロナ禍のマスク生活が始まっていて、進路を決めるこの時期ですが、自分の目指す将来像が曖昧で、学校選びがとても遅れていると聞きます。これからはより一層職業観を持っていない学生が入学してこられると思いますが、卒業までに職業観を深めて送り出せるように努力したいと思います。

田中委員) 学校教育3年間でどのレベルまで到達させるのかということも大切ですが、療法士として働いてからはもっと勉強をしなければならないので、そういう職業であることを保護者にもしっかり理解していただき、保護者と学校が協力して、自ら学び続けることができる学生を育てていただきたいと思います。

苗代田委員) 今ちょうど(子供が)臨床実習中で、社会に出たことのない学生にとっては実習は辛いもののような感じです。指導者の先生には厳しく鍛えてほしいと思う反面、温かい目で見守ってほしいと思う気持ちもあります。今の世代は精神論では乗り越えられない弱い面もあるので、学校には学生の行き場が無くならないようなフォローをしていただきたいと思います。

川端委員) 入学前に少しわかりにくかったかなと思うことは、学納金の年一括納入と月々に係る費用についてでした。仮に生活が困窮した時に、年一括納入が難しいことを相談できることが分かっていたら、学校を選ぶ際の選択肢に入るのではないかと思います。

松崎委員) 学校教育をより良いものにしようとICTを活用した新たなシステムを導入して、情報共有が進み、学生さんも復習に活用するなど、間違いなく今後の結果に繋がっていくものと思います。また、自己点検・評価も年々上がってきている項目が多いので期待をしています。先生方、是非、学生さんのために引き続きご尽力頂きたいと思います。

(6) 2021年度 決算報告書 (事務局 次長 山本)

以上

(記録: 橋本尚子)

Ⅱ. 2021年度 自己点検・評価 及び 学校関係者評価 報告書

対象期間： 2021年4月1日 ～ 2022年3月31日

評 価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

| 1. 教育理念・目標 | | | | | |
|-------------|---|---|-----------|-------|--|
| 自己点検・評価【項目】 | | 前回 | 【評価】 | 担当委員会 | 学校関係者評価【評価・意見】 |
| 1-(1) | 学校の理念・育成人材像・教育目標は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) | 3.3 | ↘ 3.2 | 学 校 | 3.3 ・評価も上がっている項目もあるので、引き続き理念等の周知に努めていただきたい。そのためにも学生との接点が多い教職員の方々の理解が不可欠であると考えます。 ・作業療法については志望する学生自体が少なくなっている状況もありますが、根気強く作業療法の魅力を訴えていくしかないかと思えます。 ・満18歳以上が成人として認められるようになったため、学生にもより一層学ぶ姿勢・就業への意識が大切と感じており即戦力となる人材育成を期待しています。 |
| 1-(2) | 医療福祉業界の要望・意見等を踏まえた学校の将来構想を策定しているか | 3.2 | ↘ 3.1 | 学 校 | |
| 1-(3) | 学校の理念・育成人材像・教育目標などが学生・保護者等に周知されているか | 2.9 | ↗ 3.2 | 学 校 | |
| 1-(4) | 育成人材像・教育目標は、医療福祉業界のニーズに向けて方向づけられているか | 2.9 | ↗ 3.4 | 学 校 | |
| 【課 題】 | | | 【今後の改善方策】 | | |
| 1-(1)-(3) | <ul style="list-style-type: none"> 学校の理念などは定められているが学生、保護者に浸透していない。 学生・保護者のニーズと、医療福祉業界のニーズに違いがある。 家庭環境・家族関係の多様化に伴い、保護者の学校・学生の状況に対する関心度が多様化する中で教育活動に興味を持ってもらうこと。 作業療法の専門性、理念をわかりやすく説明し社会に理解してもらうことが難しい。 | <ul style="list-style-type: none"> 学内の目につくところに明示する。キャッチフレーズ的に使用する。 OSCEの被検者の依頼や、各種委員の募集など、学生を通じて保護者とのコミュニケーションを促す仕掛け、接点を設ける。 一般的な作業療法の説明に加え、現場で働く作業療法の具体像を示す、わかりやすい言葉で説明する、セラピストの活躍の場の紹介をする。 教育理念、学科の目標は入学オリエンテーション時に改めて伝え、1年次より学生と共有していくことが大切だと思う。 ホームページや媒体誌、連絡文書を活用し、発信していく。 保護者説明会等（国家試験、就職説明会）を通じて周知を図る。 | | | |
| 【成果・特記事項】 | | | | | |
| 1-(3) | <ul style="list-style-type: none"> 毎年見直される学校案内のパンフレットが周知に活かされている。 コロナ禍で機会は限られているが、理事長、校長より都度学生へ周知されている。 | | | | |

2. 学校運営

| 自己点検・評価【項目】 | | 前回 | 【評価】 | 担当委員会 | 学校関係者評価【評価・意見】 |
|-------------|---|---|-------|---------------|---|
| 2-(1) | 医療福祉分野の職業教育を念頭においた運営方針・事業計画が策定されているか | 3.3 | ↘ 3.2 | 学 校 | <p>3.3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働きやすい職場は教職員の士気が上がり、それと比例し教育への情熱も上がっていくものだと思います。課題があれば優先順位を付けて、皆で少しずつ修正し、より良い学校運営に繋げていただきたいと思います。 ・フットサルでの活動が新聞で取り上げられるなど学外での活動を積極的にアピールする事は情報公開の視点からも大事な事かと思えます。 |
| 2-(2) | 意思決定機能、指示命令系統は組織機能図において明確化されているか | 2.8 | ↗ 3.0 | 学 校 | |
| 2-(3) | 前項（意思決定機能、指示命令系統）は有効に機能しているか | 2.4 | ↗ 2.6 | 学 校 | |
| 2-(4) | 就業規則は整備され、教職員が常に確認できるようになっているか | 3.2 | → 3.2 | 事 務 局 | |
| 2-(5) | 人事、給与に関する規程等は整備されているか | 3.1 | ↗ 3.2 | 事 務 局 | |
| 2-(6) | 学校運営に関する情報公開が適切になされているか | 3.4 | ↗ 3.6 | 自 己 評 価 委 員 会 | |
| 2-(7) | 組織体制の整備、情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 2.9 | ↗ 3.0 | 事 務 局 | |
| 【課 題】 | | 【今後の改善方策】 | | | |
| 2-(1) | <ul style="list-style-type: none"> ・運営方針は、入学者募集に関する点が多く、職業教育を念頭に置いたものとしては印象が薄い。 ・職業教育としてのリズムックボクシングの位置づけ・内容を説明していく必要がある。(カリキュラムにないものであり、今後学校の特徴として定着させるためには必要である) | <ul style="list-style-type: none"> ・情報公開を自ら確認していく。リズムックボクシングについては自己学習していく。(作業療法とリズムックボクシングの関係性について) | | | |
| 2-(2)(3) | <ul style="list-style-type: none"> ・指示命令系統は整備されているが、浸透していない。 ・コロナ禍における想定外の事態が多く、その際の対応において混乱することがあった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各部署の業務を明文化して誰でも把握できるようにする。 ・委員会の組織は、教員のみならば教員のみ、事務職員と連携ならばすべての委員会で連携と明確にするとよい。 ・意思決定・指示命令を出す側が、各業務に対してフィードバックを行う機会を設定する。 | | | |
| 2-(7) | <ul style="list-style-type: none"> ・Office 365の導入により、学生間や職員間での業務の効率化、情報共有は有効な反面、多くの情報の中で大切な情報が埋もれてしまい、漏れが生じることがある。また、直接的なコミュニケーションに脆弱性を感じる。 ・情報システム化等による業務の効率化は整えられつつあるが、イレギュラーケースのシステム対応が難しく手作業が必要となること。 ・業務の効率化を図る一方、業務時間外に学生とチャット等で連絡をやりとりする機会・業務が増加した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・SNSのルール作りを再検討する。 ・情報システムの利用について、発信・共有や使い方のルールを整理する。 ・不要不急の連絡については業務時間内に行うよう学生指導を徹底する。 | | | |
| 【成果・特記事項】 | | | | | |
| 2-(7) | <ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会から、学生への指導や教員の質の向上に対する研修等企画運営されている。 ・全職員共通の情報システムを活用し、情報発信、把握が出来る環境となっている。 | | | | |

| 3. 教育活動 | | | | | |
|-------------|---|---|-------|-----------|--|
| 自己点検・評価【項目】 | | 前回 | 【評価】 | 担当委員会 | 学校関係者評価【評価・意見】 |
| 3-(1) | 学校の理念・育成人材像・教育目標に沿った教育課程(カリキュラム)が体系的に編成されているか | 3.3 | ↗ 3.5 | 教育課程編成委員会 | 3.8 <ul style="list-style-type: none"> ・評価が以前より高くなってきたのは、教育活動をより良いものにしようという関係の皆さまのご努力の成果だと思えます。引き続き、学生のため、学生の未来のためにご尽力をいただければと存じます。 ・学生自身が理学療法士・作業療法士を具体的にイメージできるよう日頃からの意識付け・動機付けが必要かと思えます。 ・国家試験の合格率は学校の今後を左右するものかと思えますので頑張ってくださいと思います。 ・3年間という短期間で資格取得と就業に必要なスキルを身につけるために教員も努力されているようで、どのような教員が在籍しているかアピールすることで学生確保にもつながるのでは。 ・コロナ禍で中止になった行事や病院施設等の実習、など、様々な遅れを取り戻していけたらいいと思えます。 |
| 3-(2) | 学科の修業年限に対応した教育到達レベルを明確し、学習時間の確保はされているか | 3.4 | ↗ 3.5 | 教育課程編成委員会 | |
| 3-(3) | 医療福祉分野の病院施設や団体との連携により、実践的な職業教育の視点にたった教育課程(カリキュラム)の編成・見直し等が行われているか | 3.5 | ↗ 3.6 | 教育課程編成委員会 | |
| 3-(4) | 医療福祉分野の病院施設における実践的な職業教育(実習等)が教育課程(カリキュラム)において体系的に位置づけられているか | 3.5 | → 3.5 | 教育課程編成委員会 | |
| 3-(5) | 実習や講義等を委託する場合、教育目標及び教育到達レベルを明確にしているか、情報共有を図っているか | 3.2 | ↗ 3.5 | 教務委員会 | |
| 3-(6) | 授業評価の実施体制を整備し、定期的に評価を実施しているか | 3.5 | ↗ 3.8 | 教育課程編成委員会 | |
| 3-(7) | 授業評価結果に基づき、目標設定および授業改善が行われているか | 2.9 | ↗ 3.3 | 教育課程編成委員会 | |
| 3-(8) | 外部(卒業生、保護者、医療福祉分野の病院施設や団体、地域社会等)からの評価の体制を整備し、定期的に評価を実施しているか(アンケート、訪問・会議によるヒアリング等) | 3.1 | ↗ 3.4 | 自己評価委員会 | |
| 3-(9) | 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | 3.3 | ↗ 3.4 | 教務委員会 | |
| 3-(10) | 資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか | 3.4 | ↗ 3.6 | 国家試験対策委員会 | |
| 3-(11) | 学校の理念・育成人材像・教育目標の達成に向けて計画的に人材(専任教員・非常勤講師)を確保しているか | 3.1 | ↗ 3.3 | 学 校 | |
| 3-(12) | 医療福祉分野の病院施設や団体との連携において、要件を備えた人材(非常勤講師)を確保しているか | 3.2 | ↗ 3.6 | 学 校 | |
| 3-(13) | 教職員の専門的知識・技能等を修得・向上のための組織的な取り組み(講座・研修の受講、資格取得支援、各種学会・会議への参加等)はあるか | 3.2 | ↗ 3.6 | 学 校 | |
| 3-(14) | 教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる組織的な取り組み(講座・研修の受講、専門家による指導等)はあるか | 2.9 | ↗ 3.2 | 学 校 | |
| 【課題】 | | 【今後の改善方策】 | | | |
| 3-(1)(4) | ・指定規則改正に伴い、カリキュラムの見直しは進めているが、今後も成熟させていく必要がある。 | ・教育効果(学生の成績・国家試験結果など)の振り返りを行い、カリキュラムの成熟につなげる。 | | | |

| | | |
|-------------|---|--|
| (5) | | |
| 3-(7)(14) | <ul style="list-style-type: none"> 教授力を高める為の研修をどのように授業改善に活かしているか、それを教員間でどのように確認していくかが課題。 授業評価に基づき講義内容を検討しているが、目標設定や授業改善は個々に任されている。 外部講師の授業評価について学生からの声を反映できているのか検証が必要だと思う。 | <ul style="list-style-type: none"> 教員間で行っている講義聴講後のフィードバックの方法を再度検討する。 決定事項について遂行することが最も重要であり、学校組織として取り組んでいくことが必要である。 学科内で各担当科目に対して目標設定と効果判定をする場を設ける。 学生の学びが深まるように開講時期などの検討を行ったうえで、外部講師の調整と確保に努める。 |
| 3-(10) | <ul style="list-style-type: none"> 国家資格取得に向けて支援を行っているが、全国合格率との相対評価によって評価されるべきと考える。 第57回国試問題において、過去問題の丸暗記では確実に対応できないと感じた。暗記の前に考える(思考)時間を作る必要があると思う。 | <ul style="list-style-type: none"> 合格率を高めるための支援方法を更に検討し、実行していく。 可能な範囲で、講義形態を検討。学生自身が考えるを習慣化していくための展開。 |
| 3-(13)(14) | <ul style="list-style-type: none"> 部署によって差がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校全体としての研修を開催。 |
| 【 成果・特記事項 】 | | |
| 3-(2) | <ul style="list-style-type: none"> 全館に学生が使用できるWi-Fiを完備し、コロナ禍においても配布したプリント課題のみの学習にならないように取り組んでいる。 | |
| 3-(10) | <ul style="list-style-type: none"> 学内での教員の講義研究や講義に関する研修会が行われた。 外部講師を招いて講習を全職員に対して複数回行い、意識改革を積極的に行っている。 | |
| 3-(13)(14) | <ul style="list-style-type: none"> 教員間による講義聴講を実施し、教員相互の前向きな講義研究を推進した。 医学教育学を専門としている医師の指導を受けた。 教員養成講座に理学療法学科教員1名が参加した。 今年度は大学院博士前期課程に2名、博士号後期課程に1名が在学している。 在籍する専任教員は博士号を1名、修士号を4名が取得している。 | |

4. 学修成果

| 自己点検・評価【項目】 | | 前回 | 【評価】 | 担当委員会 | 学校関係者評価【評価・意見】 |
|-------------|--|-----|-------|-----------|--|
| 4-(1) | 就職率の目標値を設定し、具体的な対策を実施しているか | 3.3 | ↗ 3.6 | 就職支援委員会 | 3.6 <ul style="list-style-type: none"> 教員間で学生の基礎学力に関する情報を共有して、入学時より必要な個別支援をして頂きたいと思います。 個別での勉強、国家試験の対策をお願いしたい。 北陸3県内での就職が難しい状況になりつつあるかと思えます。都市部への就職の斡旋も大事かと思えますが、学生の人生設計にも関わることですので慎重な対応が必要かと思えます。 退学率や離職率は専門分野ではよくある事かもしれないが、数十年後の人口減少のことも |
| 4-(2) | 資格取得率の目標値を設定し、具体的な対策を実施しているか | 3.3 | ↗ 3.5 | 国家試験対策委員会 | |
| 4-(3) | 退学率を把握し、その上で低減に向けた具体的な対策を実施しているか | 2.9 | ↗ 3.2 | 教務委員会 | |
| 4-(4) | 卒業生のキャリア形成(社会的な活躍や評価)を把握し、学校の教育活動の改善に活用しているか | 2.6 | ↗ 3.0 | 教育課程編成委員会 | |

| | | | | | |
|-----------|---|--|-----------|--|----------------------------------|
| | | | | | 考えると人員が減っていくことは極力避けていただきたいと思います。 |
| 【課題】 | | | 【今後の改善方策】 | | |
| 4-(1) | <ul style="list-style-type: none"> 北陸3県外においても求人数の減少と質の担保が優先される傾向になり、就職試験の倍率が上がっている。 3月に北陸3県のガイダンスを行うことを予定していたが準備不足のため実施できなかった。 | | | <ul style="list-style-type: none"> 受験希望施設を複数準備し、速やかに活動を進めるよう指導を行う。 保護者説明会の目的を明確して開催する。 年間計画を立て、3月に北陸3県のガイダンスを開催できるよう準備を進める。 | |
| 4-(2) | <ul style="list-style-type: none"> 今年度は国試塾セミナーを開催し、主要3科目に関しては期間を細かく定めてグループ活動をさせたが、知識の定着に至らなかった。 担当委員会に任せきりにせず、全教員が学習成果に対して強い興味・関心を持ち、前向きな行動ができる仕組みが必要だと思う。 | | | <ul style="list-style-type: none"> 定期試験での目標点数など基準を決めて、ゆとりを持って各分野にかけるよう年間計画をしていく。 今年度の出題傾向、得点率の低い分野を分析し、来年度の講義における重点分野を示す。期間を定めるだけでなく、知識が定着しているかの確認を密に行う。 入学前段階で理学療法士、作業療法士についてより分かりやすく魅力を伝え、入学直後からモチベーションを持ち続け勉学に取り組めるよう関わりを工夫する。 | |
| 4-(3) | <ul style="list-style-type: none"> 面談や課外活動を具体的に実施したが、1年次の退学者が多い結果となった。 入学時の資格取得にむけてのモチベーションの差が大きい。 基礎学力に差があり学業継続が難しい場合がある。 入学してからわかる持病が休学・退学につながるケースもある。 | | | <ul style="list-style-type: none"> 入学後は面談(オンラインも活用)の継続、成績不良者の個別課題対応の継続。早い段階で個々の学生の抱える悩み、環境を把握し、頻回かつ適切な支援を行っていく。 健康面に関する情報が、前もってわかる仕組みがあるとよい。 学生支援室の実績と効果検証を蓄積する。 | |
| 4-(4) | <ul style="list-style-type: none"> 近年卒業生の早期離職が増えてきている。 卒業生の交流が年々減っており社会的活躍を十分に把握できていない。 | | | <ul style="list-style-type: none"> 同窓会活動を活発に行う。 | |
| 【成果・特記事項】 | | | | | |
| 4-(1) | <ul style="list-style-type: none"> 新カリキュラムより就職活動に必要な内容を科目として取り組み、段階的に準備ができるようになった。 コロナ禍でも就職ガイダンス(オンライン)を2回実施した。 外部講師による模擬面接を実施した。 講師に塾講師を招致し、アクティブラーニングを実践した。 | | | | |
| 4-(2) | <ul style="list-style-type: none"> 今年国試塾の講師を招いて、勉強のやり方を学生・教員ともに学べたところが良かった。 | | | | |
| 4-(3) | <ul style="list-style-type: none"> 学生支援室(担当)を設置した。 サークル活動を開始し、学問以外にも取り組める環境を整備している。 | | | | |

5. 学生支援

| 自己点検・評価【項目】 | 前回 | 【評価】 | 担当委員会 | 学校関係者評価【評価・意見】 |
|--|-----|-------|---------|--|
| 5-(1) 学生の進路・就職に関する体制(運営組織、制度)は整備され、有効に機能しているか | 3.4 | ↗ 3.6 | 就職支援委員会 | 3.4 <ul style="list-style-type: none"> 学生支援室を立ち上げるなど、支援体制の向上を図っていることは評価できます。今年度も引き続き改善すべき点の是正に努めていただければと思います。 一昨年に比べて去年や今年は |
| 5-(2) 学生相談に関する体制(運営組織、面談記録、定期的な実施)は整備されているか | 3.1 | ↗ 3.4 | 事務局 | |
| 5-(3) 学生の経済的支援に関する体制(奨学金制度、減免制度)は整備され、有効に機能しているか | 3.3 | → 3.3 | 事務局 | |

| | | | | | | |
|-------|--|-----|---|-----|----------|----------------------|
| 5-(4) | 学生の健康管理に関する体制（運営組織、健康診断の実施）は整備され、有効に機能しているか | 3.6 | → | 3.6 | 事務局 | 保護者向けのお知らせが増えたと感じます。 |
| 5-(5) | 学生主体の課外活動(学生会活動、ボランティア活動、クラブ活動等)を奨励・支援する体制はあるか | 2.9 | ↗ | 3.4 | 学生会支援委員会 | |
| 5-(6) | 前項（課外活動支援に関する組織体制）は有効に機能しているか | 3.0 | ↗ | 3.1 | 学生会支援委員会 | |
| 5-(7) | 学校生活指導・勉学指導への支援は行われているか | 3.3 | ↗ | 3.5 | 教務委員会 | |
| 5-(8) | 保護者へ学校情報の提供や面談を行い、適切に連携しているか（ホームページ、保護者報告会等） | 3.2 | → | 3.2 | 教務委員会 | |
| 5-(9) | 卒業生のフォローアップ体制はあるか（卒業研修、同窓会組織、1年後訪問、ホームページ等） | 2.5 | ↗ | 3.2 | 学 校 | |

| | | | | | | |
|----------------|---|--|--|--|--|--|
| 【 課 題 】 | | 【今後の改善方策】 | | | | |
| 5-(1) | ・コロナ禍にあって、オンライン面接やメール等で施設とのやりとりが増えている。 | ・オンライン等の通信機器を介した指導の現状にあわせて、就職活動の手引きを改訂することを検討する。 | | | | |
| 5-(3) | ・学生への経済的支援体制は不十分である。 | ・独自の奨学金制度の利用。 | | | | |
| 5-(5)(6) | ・コロナ禍で従来ほどボランティア活動等に参加できていない。 ・サークル活動はコロナ禍の環境、時間割との調整、担当教員個人の努力に依存していることなど、定期的な開催が実現にむけて課題が残る。 | ・感染状況を確認しながら茶話会や地域のボランティア活動に参加する。 ・新学期開始時にクラブ活動の募集を行い、初回の活動をスムーズに導入できるように学校全体でサークル活動を支援する。 ・時間割作成を工夫し、課外活動を行いやすい時間を捻出する。 | | | | |
| 5-(8) | ・保護者説明会の参加率が低く、一部の保護者を除き情報共有や連携がされていない。 | ・保護者説明会への参加率が上がる企画を盛り込むなど内容を再検討する。例えば、就職説明会であれば、卒業生から直接就職活動について話してもらう講演等を企画する。 | | | | |
| 5-(9) | ・卒業研修はオンライン開催の計画・企画立案に苦慮している。 | ・従来の同窓会総会だけではなく気軽に集える会の開催を工夫する。 ・事前にオンラインでも対面でも可能な年間計画を立てる。 | | | | |

| | |
|--------------------|---|
| 【 成果・特記事項 】 | |
| 5-(2) | ・学生支援室を立ち上げ、定期的な面談や教員間の情報共有を実施した。面談に際し、他学科の教員が関われるようにした。 ・定期ミーティング開催して専門家からアドバイス受けながら対応を図った。 |
| 5-(5)(6) | ・金沢市の「雪かきボランティア」に登録をした。 ・課外活動の一環としてサークル活動を発足し、学年や学科を超えた交流を図り、勉学以外にも興味を持って取り組める体制を整えた。 |
| 5-(9) | ・卒業研修を毎月1回開催した。 ・卒業生へのフォローアップが同窓会を通じて行われた。 |

6. 教育環境

| 自己点検・評価【項目】 | 前回 | 【評 価】 | 担当委員会 | 学校関係者評価【評価・意見】 |
|--|-----|-------|---------|------------------------------------|
| 6-(1) 学校施設・設備は定期的に管理・点検され教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 3.1 | ↗ 3.4 | 備品管理委員会 | 3.5 ・コロナ禍での実習時間の減少が今後どの様に影響していく |

| | | | | | |
|-----------|---|---|-------|----------------|---|
| 6-(2) | 教育上必要な図書が系統的に整備されているか | 3.2 | ↗ 3.5 | 図書委員会 | <p>か心配です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により実習施設の確保が難しくなっていると思いますが、学生により良い実習を受けて頂けるよう配慮の程をよろしくお願いいたします。 ・ICTを推進していることは評価できる。今後もそのための機器が多くなるのが予想されるので、情報システム担当者を増員する必要があるように思う。そのためにも職員の中でもITリテラシーの向上を目的とした研修を行い、複数の人間で対応できるよう準備を進めていただきたい。 |
| 6-(3) | 実習施設や国内外の研修等は整備されているか | 3.1 | ↗ 3.5 | 学 校 | |
| 6-(4) | 防災・安全対策（非常時の避難、誘導対策面、危機管理マニュアルの周知）は整備されているか | 3.2 | ↗ 3.5 | 事 務 局 （庶務課） | |
| 【課 題】 | | 【今後の改善方策】 | | | |
| 6-(1) | <ul style="list-style-type: none"> ・指定規則物品の棚卸しに時間を要す。 ・授業のICT化の推進に、備品を追加購入する必要がある。 ・安定した通信（Wi-Fi）状況の維持。 ・定期的に管理・点検、修繕は行っているが、経年劣化がみられる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・指定規則物品のうち、「一式」の内容（品目）を明確化する。物品の保管場所を明記し指定場所での保管を徹底するよう各教員に働きかける。 ・定期的なメンテナンスを計画的に行う。 | | | |
| 6-(3) | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で臨床での実習時間が減少している。 ・コロナ禍で臨地実習が中止になり学内実習をした学生と、臨地実習を満了できた学生との間に経験の差が生じている。 ・新カリキュラム「基礎作業療法学臨床実習Ⅱ」における実習施設が不足しており施設の確保が急務である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学内実習に変更になった学生のために、対面、オンライン問わず症例を見せることができる体制を考案する。 ・実習施設を新規開拓し、学生の受入れ数を確保する。 | | | |
| 6-(4) | <ul style="list-style-type: none"> ・感染対策の意識・取り組みをどのように継続するか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・感染状況が落ち着いても、手洗い・体温測定・三密予防の対策を継続。 ・新入生に対してコロナウイルス感染症を含めた感染症に関する特別講義を企画する。（講師は現場の医師やセラピストに依頼する） | | | |
| 【成果・特記事項】 | | | | | |
| 6-(1) | <ul style="list-style-type: none"> ・無線通信環境（全館Wi-Fi）が整備された。 ・全館空調設備の入替、エレベータの取換工事を行った。 | | | | |
| 6-(2) | <ul style="list-style-type: none"> ・図書委員を中心とした学生とともに図書室の整備を行った。 ・電子図書を増やしており、図書が充実してきている。 | | | | |
| 6-(3) | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により国外研修は再開できていないが、ドイツフェルカー校とのオンライン交流会を定期的に開催している。 | | | | |

7. 学生の受入募集

| 自己点検・評価【項目】 | 前回 | 【評価】 | 担当委員会 | 学校関係者評価【評価・意見】 |
|--|-----|-------|----------------|--------------------------------------|
| 7-(1) 学生の募集活動において、教育成果・実績等は正確に伝えられているか | 3.6 | ↗ 3.7 | 事 務 局 （入試課） | 3.4 ・県内における養成校の増加や少子化の影響で、大学・専門学校 |

| | | | | | | |
|-----------|---|-----|-----------|--|--------------|---|
| 7-(2) | 入学志願者の問合せ・相談に対する体制が整備され、情報提供（育成人材像、資格、学費・教材費、選抜方法）は適正にされているか | 3.5 | ↗ | 3.8 | 事務局 (入試課) | 校、各学校間での競争がますます激しくなってくると思いますが、学生の受入募集に関することは先手先手で行っていただきたい。 ・学校納入金について分納制度はあった方が良いと思います。 |
| 7-(3) | 学納金は妥当なものとなっているか | 3.2 | ↗ | 3.3 | 事務局 (入試課) | |
| 7-(4) | 入学辞退者の授業料に関して適正な扱いを行っているか | 3.7 | ↗ | 3.8 | 事務局 (入試課) | |
| 7-(5) | 入学予定者への入学前課題等の学習指導を実施しているか | 3.8 | → | 3.8 | 入試委員会 | |
| 7-(6) | 入学予定者に対してオリエンテーションを実施し、学校生活のための支援をしているか | 3.5 | ↗ | 3.7 | 入試委員会 | |
| 【課題】 | | | 【今後の改善方策】 | | | |
| 7-(2) | ・コロナ禍でオープンキャンパス参加者を地域限定に開催したことがあった。 | | | ・現状オンラインオープンキャンパスで対応をしているが、更に配信環境、内容などをオンラインでも伝わるように改善する。 | | |
| 7-(3) | ・学生数の減少、県内の他校に同学科が新設される中で、学校納付金は他校に比べて高く、分納制度がないことで、進学先の選択肢から外れることが懸念される。 | | | ・学校納付金の設定、分納制度、入学金の早期納入制度や納入方法について見直し等を検討する。 ・納入方法について募集要項等で分かりやすく記載する他、ホームページ等で公開し、オープンキャンパスに参加していない志願者へも周知できるようにする。 | | |
| 【成果・特記事項】 | | | | | | |
| 7-(2) | ・入試課直通の電話を用意し、時間外での問合せに対しよりスムーズに対応できるようにした。 | | | | | |
| 7-(3) | ・新しい奨学金制度の対象校となっている。 | | | | | |

8. 財務

| 自己点検・評価【項目】 | | 前回 | 【評価】 | | 担当委員会 | 学校関係者評価【評価・意見】 | |
|-------------|---|-----|-----------|-----|---|---|--|
| 8-(1) | 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 2.8 | ↗ | 3.0 | 事務局 (経理課) | 3.3 ・学生数、入学者数が財務に直結してくるので、教職員全員で課題を共有し、是正していくことが結果、財務の安定に繋がると考えます。 | |
| 8-(2) | 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか、また定期的に確認しているか | 3.0 | ↗ | 3.1 | 事務局 (経理課) | | |
| 8-(3) | 財務について会計監査が適正に行われているか | 3.4 | ↗ | 3.5 | 事務局 (経理課) | | |
| 8-(4) | 財務情報公開の体制を整備し、適正に運用しているか | 3.4 | → | 3.4 | 事務局 (経理課) | | |
| 【課題】 | | | 【今後の改善方策】 | | | | |
| 8-(1)(4) | ・現在は安定しているが、競合校の増加、18歳人口の減などのマイナス要素が多い。 ・入学者数と退学者数に影響を受けるため、中長期的安定には両学科の入学 | | | | ・極度の減収を見据えたシミュレーションをあらかじめ行っておく。 ・職員が1年に1度財務状況の説明を聞く機会を設ける。 | | |

| | | |
|-------------|---------------|--|
| | 者数を確保する必要がある。 | |
| 【 成果・特記事項 】 | | |
| 8 | 特になし | |

| 9. 法令等の遵守 | | | | | | |
|-------------|--|-----|--|-----|--------------|--|
| 自己点検・評価【項目】 | | 前回 | 【評価】 | | 担当委員会 | 学校関係者評価【評価・意見】 |
| 9-(1) | 法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか | 3.5 | ↗ | 3.6 | 事務局 | 3.6 ・法令の遵守はしっかりされていると思うが、課題がある部分については、具体的に日程を決めて改善に取り組んでいただきたい。 |
| 9-(2) | 学生および職員の個人情報について閲覧権限等の設定がされ、個人情報保護の対策が講じられているか | 3.2 | ↗ | 3.3 | 事務局 (庶務課) | |
| 9-(3) | 文書管理規程、文書管理リスト(ファイル管理簿)、決裁規程(文書処理規程)、公印管理規程が文書化されているか | 3.1 | ↗ | 3.4 | 事務局 (庶務課) | |
| 9-(4) | 自己点検・評価の体制を整備し、定期的に評価を実施しているか | 3.6 | ↗ | 3.8 | 自己評価 委員会 | |
| 9-(5) | 自己点検・評価結果に基づき、目標設定および改善策に取り組んでいるか | 3.3 | ↗ | 3.4 | 自己評価 委員会 | |
| 9-(6) | 自己点検・評価結果を公表しているか | 3.7 | ↗ | 3.8 | 自己評価 委員会 | |
| 9-(7) | 学校関係者評価の体制を整備し、定期的に評価を実施しているか | 3.6 | ↗ | 3.8 | 自己評価 委員会 | |
| 9-(8) | 学校関係者評価結果に基づき、目標設定および改善策に取り組んでいるか | 3.2 | ↗ | 3.3 | 自己評価 委員会 | |
| 9-(9) | 学校関係者評価結果を公表しているか | 3.7 | ↗ | 3.9 | 自己評価 委員会 | |
| 【課題】 | | | 【今後の改善方策】 | | | |
| 9-(4)-(9) | ・目標設定と改善策への取り組みは受け身的である。 | | ・目標設定や改善策の明文化、すぐに確認できるところに掲載する。また取り組みの改善結果や変化は職員がきちんと理解できる方法で開示・通達する。 ・中間評価など、振り返る機会を増やす。 | | | |
| 【 成果・特記事項 】 | | | | | | |
| 9-(4)-(9) | <ul style="list-style-type: none"> ・職業実践専門課程のガイドラインに従い各種委員会で評価・点検を行いホームページにて情報公開を行っている。 ・毎年度終わりと初めに各委員会からの総括、並びに次年度目標を設定し実践している。 | | | | | |

| 10. 社会貢献・地域貢献 | | | | | |
|---------------|---|--|-----------|---------|---|
| 自己点検・評価【項目】 | | 前回 | 【評価】 | 担当委員会 | 学校関係者評価【評価・意見】 |
| 10-(1) | 学校の教育資源や施設を提供し、社会貢献・地域貢献を行っているか | 3.0 | ↗ 3.2 | 事務局 | 3.5 <ul style="list-style-type: none"> ・雪かきボランティアの提携を結んだことは良いことだと思います。 ・学校として教職員が社会・地域貢献をされていることは評価できる。 ・新聞に取り上げられる活動もあり、就業時に活かしていただきたいです。 ・コロナ禍のボランティア活動は難しい部分もあると思います。終息した時に何ができるか、準備をしておくことが大切だと思います。 |
| 10-(2) | 地域に対する生涯学習事業（公開講座、教職員の出張講座）の提供や教育訓練（公共職業訓練を含む）の受託等を実施しているか | 3.1 | ↗ 3.3 | 教員広報委員会 | |
| 【課題】 | | | 【今後の改善方策】 | | |
| 10-(1)(2) | <ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献・地域貢献は年々増えているが、学校組織としての取組みはまだ十分とは言えない。 ・コロナ禍の活動制限があり、学校の資源・施設提供は難しい状況にある。 ・活動内容が見えづらい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校組織として可能な地域貢献活動の日程や期間を設定する。 ・学内の情報共有を密にする。実施予定などを公開し参加を促す。 ・地域のニーズを探る。 | | | |
| 【成果・特記事項】 | | | | | |
| 10-(1) | <ul style="list-style-type: none"> ・各種オンライン研修の基地局として学校施設を提供している。 ・研修会等での機器の貸し出しを行っている。 ・コロナ禍において学生会が町内会と「雪かきボランティア」（金沢市）の提携を結んだ。 | | | | |
| 10-(2) | <ul style="list-style-type: none"> ・中学校からの依頼で教員が職業講話や職業体験を提供している。 ・教員が地域の高齢者を対象に疾病予防講座を実施している。 ・事務職に公共職業訓練生を受け入れている。 | | | | |